

## 学生たちの手で満開に

### 「旧ゑびや旅館「桜の間」天井画」

今年4月、本町の「まちかど博物館（旧ゑびや旅館）」の桜の間にある天井画が修復されました。5月13日(日)には、天井画のお披露目会が行われ、多くの人が集まりました。天井画には、鹽竈桜とみられる八重桜が天井一面に描かれています。

修復は、東北工業大学の建築学科中村研究室の学生によって行われました。中村研究室の学生は、歴史的建造物のデザインや技術などを学び保存活用を行う研究をしています。今回、旧ゑびや旅館を管理しているNPOみなとしほがま事務所は、日本画家の天笠慶子さんの指導の下、天井画の修復にあたり、描画の方法

もと行われました。

天笠さんは「天井に直接描くことはとても大変で、学生もよく頑張ったと思います。塩竈市の皆さん、観光客の皆さんに愛される場所になってほしいと思います」と話しました。

東北工業大学の中村先生は「今回の修復は、学生だからこそできたものです。これからも歴史的な建物を通して、塩竈市に関わっていきたいと思います」と話しました。

塩竈の新しい名所、学生たちの手で満開になった桜の天井画を実際に見に来てはいかがでしょう。



▲蓄積した汚れを拭き取ります



▲天井を外さずに描いています



▲修復された天井画

問 NPOみなとしほがま事務局  
☎364-0686(旧亀井邸)

## シリーズ 塩竈の魅力再発見②

### 「塩竈の海で育った海藻が、獲れる魅力」

海風の冷たさを感じる船の上で、塩竈の魅力を教えてくれたのは、観光振興ビジョン推進メンバーの赤間俊介さん。

塩竈の水産業といえば、マグロなどの魚を思い浮かべますが、それだけではないと話します。

「メカブやアカモクが獲れることは塩竈の魅力です。」と話しながら、メカブやアカモクについて教えてくれました。

「魚市場に水揚げされる魚は、塩竈以外の海を泳いでいた魚もいる。でも、このメカブやアカモクは、細胞レベルで塩竈の海で生まれ育ち、



塩竈で獲れて塩竈から出荷されていく、それってすごいですよね。」と話してくれました。

最近注目されている海藻「アカモク」の、おすすめの食べ方を聞くと、醤油でシンプルに食べるのが好きですねと教えてくれました。

赤間さんは「塩竈の海で獲れた海藻を多くの人に食べてほしいです。」と話しました。

皆さんも、塩竈の海で獲れたおいしい魅力を発見してみませんか。



▶風が強く揺れる船の上で、素早くメカブを獲っていきます



観光振興ビジョン  
推進メンバー  
赤間 俊介さん

問 観光交流課人・まち交流係 ☎364-1165

